４．ワーキング・グループの開催

対象５エリアについて、３つのワーキング・グループ（千葉県 WG・荒川流域 WG・渡良瀬 WG）を設置し各１回の開催を通じ、南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくりについて、個別・具体的な検討を行った。

4-1　開催概要

(1)会場と日時

渡良瀬ＷＧ（座長：桜井善雄委員 ／代表幹事市：栃木県小山市）

・日時：2 月　8 日（月）10：00－12：00

・場所：小山市役所　3 階　大会議室

荒川流域ＷＧ（座長：浅枝隆委員 ／代表幹事市：埼玉県鴻巣市）

・日時：2 月 15 日（月）14：30－16：30

・場所：鴻巣市立総合体育館　2 階　ホール１・2

千葉県ＷＧ（座長：長谷川雅美委員 ／代表幹事市：千葉県野田市）

・日時：2 月 17 日（水）14：00－16：00

・場所：京成ホテルミラマーレ　8 階　オーキッド

(2)議事内容

1.開　　会　　司会　：　（財）日本生態系協会　関　事務局長

2.あいさつ　代表幹事市長

・渡良瀬ＷＧ　：　栃木県小山市　大久保寿夫 市長

・荒川流域ＷＧ　：　埼玉県鴻巣市　原口　和久 市長

・千葉県ＷＧ　：　千葉県野田市　根本　　崇　市長

3.座長あいさつ

・渡良瀬ＷＧ　：　桜井　善雄　委員

・荒川流域ＷＧ　：　浅枝　隆　　委員

・千葉県ＷＧ　：　長谷川雅美　委員

4.議　　事

（１）調査背景について

（２）調査結果について　※自然条件・社会条件の整理結果を報告

（３）コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について

①STAGE1．飼育・放鳥拠点整備と関係主体の役割分担

②STAGE2．採餌および営巣・塒の生息環境整備の推進

③STAGE3．継続的取り組みと地域振興・経済活性化への展開

5.そ の 他

※　検討委員会へ結果を報告／自治体意向確認アンケートの依頼

6.閉　　会・あいさつ　：　千葉県野田市　伊藤　都市計画部長

4-2　主な意見など

(1) 渡良瀬ＷＧ

□ワーキングの位置づけについて

・地域のエリアやいろいろな連携は、このプロジェクトを出発点として、霞ヶ浦を含む関東の他エリア・環境省などの他機関を含めた広域的な展開が望ましい。

・コウノトリの餌場の確保のためには地域住民の理解と農家の協力が不可欠。

□現在行われている事業との関係について

・「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」における計画の中に、本プロジェクトで検討しているコウノトリ・トキの野生復帰のテーマをとり入れていただきたい。

・多くの人々の理解を得るために、基本構想、将来の目標、イメージは非常に大事。

・遊水地でのヨシ焼きやレクリエーション利用を含めた地域振興について、総合的な調整と検討が必要。

・地域に情報を提供し、地域を巻き込み、地域の努力として生息環境づくりに繋がるような戦略を展開する必要がある。

・餌環境の向上について、「農地・水・環境保全向上対策」の活用が有効。

・治水優先ではあるが、渡良瀬遊水地をラムサール条約の登録地の一つにしていきたい。

□冬季湛水について

・水田の環境は、ラムサール登録のための要件としても重要。

・冬季の水のネットワークをどう確保するか。河川と農政の連携が必要。

・流域で融通しながら、冬季通水について工夫と配慮を求めたい。

・渡良瀬エリアは地盤沈下地帯のため、地下水が容易に使用できない。地表水の手当てが重要な課題。

□他地域、他国の取り組みについて

・豊岡の“環境と経済の両立の仕組み”を参考にすることが重要。

・他国のエコロジカル・ネットワークの取り組みについて、先進的な事例を随時紹介して欲しい。

□他エリアのワーキングの状況や今後について

・検討委員会や各エリアのワーキングについては、来年度以降も継続する仕組みが必要。

(2)荒川流域ＷＧ

□コウノトリに関する鴻巣市民による活動について

・鴻巣市民としては署名活動を実施した。鴻巣市には本腰を入れていただき、県・国に支援してもらえるように盛り上げたい。

□人間活動とコウノトリ・トキの共存について

・地域のインフラとしての上尾道路・圏央道の整備が、オオタカによる公共事業のストップの二の舞にならないようトキやコウノトリがうまくマッチングするよう検討する必要がある。

・このエリアは東京から人を呼ぶのに有利であり、道路整備は地域振興の面から追い風になると期待される。

・自然との共存・魅力的な地域づくりのシンボルとしてコウノトリをとらえるべき。

□コウノトリの生息環境の保全について

・コウノトリ・トキのねぐら環境としての森づくりも重要。

・コウノトリ・トキと人の暮らしとが調和するような仕掛けづくりとセットでないと取り組みは難しい。

・コウノトリ・トキの保護指針がつくれないか。共存にはルールづくりが必要。

□コウノトリ・トキによる経済効果について

・ブランドとしてコウノトリの名を冠したものはつくりやすく、観光資源としての効果が大きいと思われる。

・鴻巣市では有機栽培した米を「こうのとり伝説米」として販売。

□行政主体によるサポート体制について

・コウノトリの野生復帰に関わる水辺、農業、産業の推進のための仕組みや取り組みを考えていただきたい。

・河川－河川のネットワーク化の推進、広報。

・農政－農地・水・環境保全向上対策の広報、冬季湛水に対する他セクションとの連携。

・埼玉県－都市周辺の緑地の公有地化、アライグマなどの外来種対策、水辺環境の保全、農産物のブランド化。

□コウノトリ・トキの飼育放鳥体制について

・あえてトキを飼育放鳥対象からはずす必要はないのではないか。

・子どもむけプログラムを作るなど、次世代への土台づくりも重要。

(3)千葉県ＷＧ

□野生復帰の可能性について

・佐渡と比較した場合、トキの生息環境ポテンシャルとして千葉は優れており、佐渡でのトキや豊岡でのコウノトリのように、千葉周辺でトキ・コウノトリの野生復帰に向けた取り組みを行えば、必ず良い結果が得られると思う。

・千葉にはかつてトキ・コウノトリが沢山いたし、谷津田や里山、森と田んぼがセットの豊かな水辺があるので、千葉にコウノトリやトキがいるのは当たり前なこと。
・コウノトリやトキは湿地を利用し、一羽で数 km 四方の面積を利用することから、エリア内での十分な餌の確保が可能な環境があれば、コウノトリやトキの生活は可能である。
・トキをどこから連れてくるかを考えると、早めに環境省の方へ申請をし、千葉でも野生復帰を行う意志を示さないと出遅れる。

□生息環境づくりについて

・冬期に乾田化されている田んぼでの工夫（冬期湛水等）が必要。
・「たね地」としての公有地、公共用地をうまく活用しようという動きも出てきている。
・農業の見直しが必要。農薬、化学肥料、除草剤などを見直し、減農薬など、地域では様々な努力をしていかなくてはいけない。
・耕作放棄などの問題と向き合い、農業のあり方や農業の力をどう復元していくか、国や県からの農業や地域づくりに関する力強い支援が必要。
・都市近郊の谷津田をコウノトリの餌場として活用することを農家の方へ提案したい。

□野生復帰に向けた連携のあり方について

・自然のネットワークづくりと同時に、それに取り組む私たち人間同士のコミュニケーション・人間関係づくりをはかり、絆を作っていくことが必要。
・今回の南関東というエリアを対象に、自治体間で新たな組織づくりを行いたい。また県や国にも連携・支援をお願いしたい。
・サシバの渡りの観察会を例にとると、鳥の種によっては関心のある方が集まり、連携につながりやすい。そこに行政の方が加わって頂くと、エリア間の連携ができる。
・野鳥の生息地がつながっていることから、ワーキングでのエリア間の連携が必要。
・谷津田再生の地域連携の中ではボランティアが多数集まっている等、それらに目を向けた、県レベル、国レベルからの支援が望ましい。

５．効果的・一体的な野生復帰プロセス、メニューに関する検討

３つのワーキング・グループの検討を踏まえ、対象５エリアの連携による将来のコウノトリ・トキの野生復帰に向けた施策内容、実施手順、役割分担について検討を行った。

5-1　野生復帰に係る取り組みメニュー・プロセスの検討

各ステージにおける具体的な取り組みメニューを改めて抽出・整理するとともに、中・長期的な取り組みのプロセスとして「計画期」・「試験放鳥準備期」・「試験放鳥期」・「野生復帰・定着期」の各期を設定し、それぞれのメニューのおよその推進スケジュールを想定した。（表 3）

また、コウノトリ・トキの野生復帰を核とした地域づくりを進めていく上では、本年度に設定したエリア別ワーキングをベースとしつつ、南関東地域全体を視野にいれた、地域および分野横断的な推進体制（図 4）を構築し、取り組みにおけるエリア間の連携・協働・調整を推進していくことが重要と考えられる。

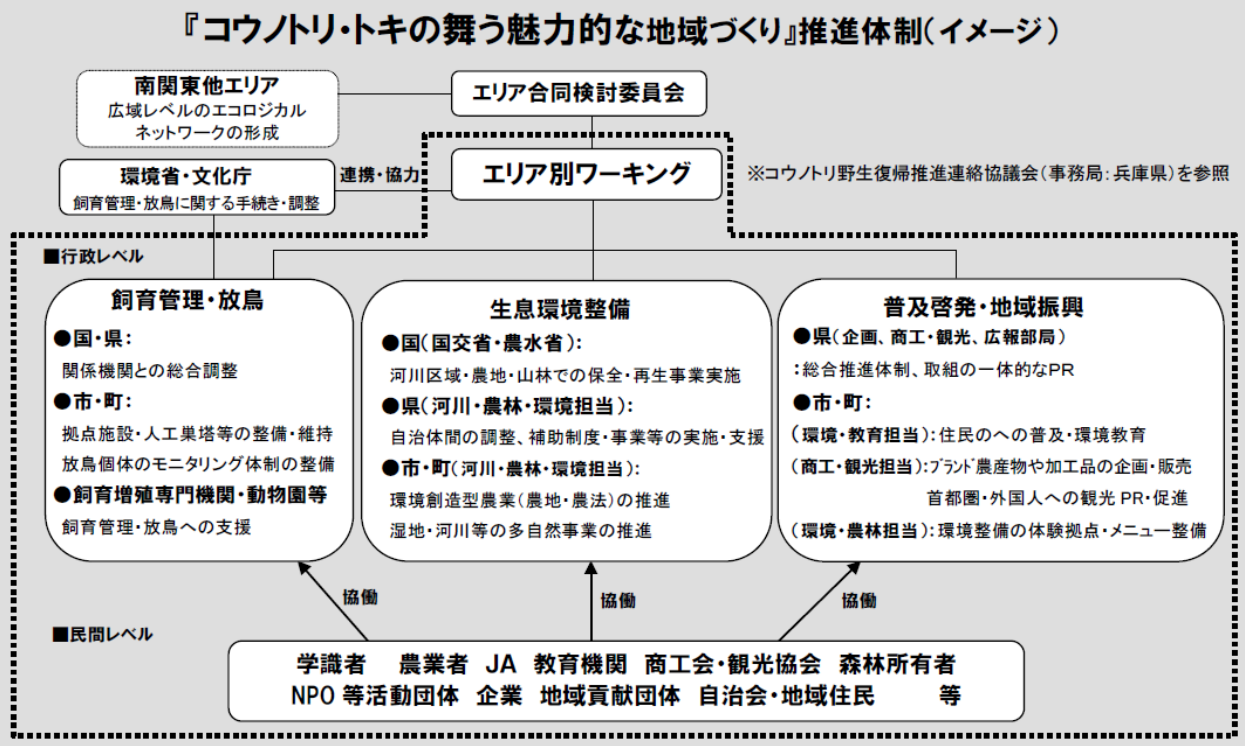


図 4 推進体制イメージ

表 3 実施メニュー・プロセス（案）の一覧

			メニュー	プロセス				関連主体等
				計画期	試験放鳥準備期	試験放鳥期	野生復帰・定着期	
【Stage.A】飼育・放鳥事業	事前調査・計画等		基礎情報の収集・整理					推進協議会
			飼育・放鳥計画の策定（方法、時期、個体数等）					5エリア連絡協議会等
	飼育・放鳥拠点の整備		飼育・放鳥拠点の検討・選定					推進協議会
			拠点用地の確保					国・県・市町
			拠点施設の整備					県・市町
			拠点周辺人工巣塔の整備					県・市町・企業等
	受け入れ環境の把握		拠点周辺（近距離周辺整備地区）の環境評価					推進協議会
			放鳥による農水産物の被害懸念への説明対応					国・県・市町
	個体の飼育・管理		増殖個体の提供（ペアリング、馴化訓練含む）					動物園
			飼育・放鳥拠点での個体の飼育・管理・増殖					市町、動物園、獣医師
	放鳥・野生復帰		放鳥の実施					市町・関係者協議会等
			遺伝的多様性の確保					研究者、推進協議会
			放鳥後のモニタリング方法・体制の検討・実施					研究者、NPO、推進協議会
	受け入れ環境づくり		地域の受け入れコンセンサスづくり					市町・企業・住民等
			餌の確保（ドジョウの養殖等）の検討・実施					県・市町・地元農家等
【Stage.B】生息環境整備事業	現状把握・計画		現状の環境の調査・評価、生息環境整備計画の検討					推進協議会
	河川区域	特徴的な水辺環境の保全・再生・創出	河岸浅瀬の創出					国・県・市町
			湿地環境の再生					国・県・市町
			環境推移帯の再生					国・県・市町
		河川の連続性の確保	魚道の整備・改善、河川の連続性の確保					国・県・市町
			樋門落差解消、支川・本川の連続性の確保					国・県・市町
		人と河川の関わりの保全・再生	環境学習拠点の整備					国・県・市町
			水にふれあえる水辺の整備					国・県・市町
	農地	環境創造型農業の推進	環境創造型農業の普及					国・県・市町・農家
			コウノトリ・トキブランド米の流通システムの構築					県・市町・JA・企業
			集落営農組織の育成					県・市町・農家
		生態系豊かな水田づくり	冬期湛水水田の推進					県・市町・NPO
			転作田のビオトープ化					県・市町・NPO
			排水路と水田の連続性の確保（魚道）					県・市町・NPO
	樹林	営巣・塒の適木育成 里山林づくり	営巣木となるアカマツ林の育成					県・市町・NPO
			マツクイムシ防除等、マツ林の保全					国・県・市町
			里山林の保全・管理					県・市町・NPO
	その他		支障物対策（電線、鉄塔、飛行場等）					県・市町・企業
【Stage.C】普及啓発・地域振興	事前調査・計画等		基礎情報の収集・整理、取り組みの検討					県・市町・市民団体等
	コウノトリ・トキと共生する地域づくりに向けて	住民が参加する仕組み	住民を対象としたコウノトリ・トキとの共生理解のための環境教育（講座の実施、生涯学習講座）					市町・市民団体・住民
			環境づくりに向けて住民が活動できる拠点、既存団体などの情報整理・発信					県・市町・市民団体
			コウノトリ・トキのために住民が参加・支援可能なことを整理し、パンフレットなどで広報・配布					県・市町
			小中学校など義務教育でのコウノトリ・トキとの共生に関する体験学習・総合学習					市町・市民団体・教育機関
			放鳥後のモニタリングや環境調査への参加					市町・市民団体・住民
		地域全体での盛り上がり	既存施設（道の駅等）を活用したコウノトリ・トキに関する取組の情報集約・発信の拠点整備					市町
			コウノトリやトキをシンボルとした看板等の整備					国・県・市町
			継続的なコウノトリ・トキに関する情報の発信（ローカルテレビ、ラジオ、新聞などのコーナー）					市町・企業等
	コウノトリ・トキとの共生を活かす		コウノトリ・トキを目玉とした観光プロモーションの実施					国・県・市町・企業等
			飼育・放鳥拠点周辺の既存施設を活かした来訪者向けの情報発信・商品販売拠点の整備					市町
			体験拠点の整備や体験プログラムの整理					市町・市民団体
			エコツアーガイドやコーディネーターの育成					市町・市民団体・住民
			情報発信拠点へのコーディネーターやガイドの配置					市町
			旅行業者や交通機関との連携					市町・企業等
			エリア内のブランド農産物、加工品等の整理					市町・民間事業者・農家
			環境づくりのための商品としてのプロモーションの実施					市町・民間事業者・企業
			道の駅、アンテナショップ、ネット販売等を活用した販売促進					市町・企業
	普及啓発・取組の継続・発展に向けて		地域外の住民や来訪者による支援体制づくり（観光情報、活動情報、商品購入などの情報を提供）					市町・企業等
			取組の発信・普及や支援呼びかけの説明会、報告会、交流会の実施					国・県・市町・市民団体・企業等
			南関東他エリアとの定期的な自然・社会面のモニタリング結果の報告、情報交換会					国・県・市町・市民団体・企業等
推進組織			エリア毎にワーキングの開催・運営					国・県・市町
			各エリアの野生復帰推進計画の検討・策定・推進	検討	策定	推進	見直し・推進	推進協議会等

5-2　参加自治体の意向の把握

各ＷＧのメンバーとなっている５県５エリア２０自治体に対し、本事業を進めていく上での意向・課題についてアンケート形式による調査を行った。

アンケートで把握された意見のおよその内容は下記の各点であった。

- 単独での取り組みは難しく、広域的な協力も必要であることから、国や県の支援・協力が不可欠。
- 継続的かつ省庁・分野横断的な検討・協議の場が必要。
- 積極的に取り組みたい、支援・協力なら可能など、それぞれの意向、事情に沿った役割のもとで連携・協働を進めていく仕組みが必要。（全ての主体が同じ取り組みを進めることは困難）
- 地域、市民団体、事業者等の理解・協力が不可欠。
- 専門家、研究者との連携、支援が必要。
- 調査研究など、状況を的確に把握したうえでの取り組みとすることが必要。
- 地域活性化や既存の事業とうまく結び付けていくことが必要。
- 関係主体間において理念、目標を共有することが必要。

5-3　野生復帰に向けた今後の課題

各ワーキングでの議論および各自治体からの意見も踏まえ、コウノトリ・トキの野生復帰実現に向けた広域的・一体的な取り組みを進める上での課題を以下に整理した。

- 本プロジェクトでは、100 年程前に姿を消した首都圏・南関東のコウノトリ・トキを復活させるという壮大な構想であり、個別自治体、単一エリアでの取り組みでは解決が困難な課題も多い。

- しかし、この挑戦的で戦略的なプロジェクトによって、水辺環境の保全・再生がはかられ、地域振興・経済活性化の成果が期待され、生態系サービスの向上に資するものである。

- コウノトリ・トキの舞う地域づくりを実現するためには、段階的なプロセスを通じて、多岐にわたる取り組みメニューが求められる。

- 県・市町村では、河川・農地・環境・商工・観光の各セクションが横断的に取組むプロジェクトチームを組織し、国は関係省庁の協力・支援のみならず実施主体としての事業化が求められる。

６．提言のとりまとめ

3 つのワーキング・グループの検討を踏まえ、南関東地域における将来のコウノトリ・トキの野生復帰の実現に必要となる項目について基本方針を検討し、提言のとりまとめを行った。

6-1　提言「南関東コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり宣言（仮称）-南関東地域におけるコウノトリ･トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して-」

わたしたちは、かつて水辺の生物多様性が豊かであった南関東地域において、多様な主体の協働・連携によりコウノトリ・トキを指標（シンボル）とした河川および周辺地域における水辺環境等の保全・再生に取組み、水と緑が豊かなエコロジカル・ネットワークの形成を進めます。そして、コウノトリ・トキの野生復帰を通じた「環境の世紀」にふさわしい地域振興・経済活性化方策にも並行して取組み、魅力的かつ内発的な地域づくりのための広域連携モデルの形成を推進します。

6-2　「南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり」推進の基本方針

１．コウノトリ・トキの野生復帰を通じたエコロジカル・ネットワークの形成に際しては、南関東地域は両種のかつての主要分布域であったことや生態的な特性が近いことから両種をともに野生復帰の目標とし、対象地域間の連携を図りながら南関東から関東全域への魅力的な地域づくりの展開を進めます。

２．コウノトリ・トキの野生復帰に当たっては、安定的な生息が可能となる環境（ハビタット）を保全・再生する取り組みと共に、対象とする地域の人々の暮らしとコウノトリ・トキとの関係が安定的・持続的に形成されることが不可欠となります。すなわち、採餌環境としての河川・湿地・水田等、営巣・塒環境としての樹林地について、コウノトリ・トキの生息条件を満たす環境の整備が必要であり、それらを支える地域の人々の理解と協力に基づく取り組みを進めます。

３．その上で、コウノトリ・トキの保護増殖数の現状と先行事業地における目標や進捗との整合等を勘案し、南関東地域で増殖個体の野外放鳥（リリース）に取り組みます。具体的には、増殖数が多いコウノトリを当面の対象に野外放鳥の実現を目指し、トキは佐渡の取り組み状況を勘案しながら検討を継続します。

４．コウノトリ・トキの野生復帰は、希少生物の保護や生物多様性の改善のみならず地域振興や経済活性化にも大きな役割を持ちうることから、環境対策としての基本を踏まえながら、地域ごとの個性に応じた魅力的かつ内発的な地域づくりに向けた取り組みを積極的に推進します。

７．地域の将来目標と自然保全・再生、地域振興・経済活性化戦略の検討

対象５エリアにおける将来目標のイメージマップを作成するとともに、次年度以降の自然保全・再生、地域振興・経済活性化の戦略メニューの提案のとりまとめを行った。

7-1　将来目標図の検討

将来目標図は、コウノトリ・トキの野生復帰の検討を実施した５つのエリア（渡良瀬遊水地エリア、荒川流域エリア、利根運河周辺エリア、北総（手賀沼・印旛沼）エリア、房総中部エリア）を中心として、コウノトリ・トキの飛翔を５エリアの連携・ネットワークをイメージさせながら、今後、地域が目指す自然保全・再生、地域振興・経済活性化の方策イメージをイラストに表した。

図５ 将来目標図

7-2　戦略プログラムの検討

調査・検討した結果を集約し、「南関東地域における「コウノトリ・トキの野生復帰」検討の基本方針」を踏まえ、主体間の連携による戦略プログラムを 3 つのステージ（Stage.A、Stage.B、Stage.C）に分けて提案し、意見を求めとりまとめた。

●Stage. A

飼育・放鳥に係る拠点施設整備と多様な主体の協働

【たね地づくり】―――生み出す

●Stage. B

採餌および営巣・塒の生息環境整備の推進

【定着地づくり】―――つなぎとめる

●Stage. C

継続的取り組みと地域振興・経済活性化への展開

【人づくり・地域づくり】―――果実を得る

Stage.A　飼育・放鳥に係る拠点施設整備と多様な主体の協働　【たね地づくり】－ 生み出す

南関東地域におけるコウノトリ・トキの定着をめざし、広域的に多様な主体による連携・協力を基本として飼育・放鳥に係る取り組みを進めていく必要があります。

飼育・放鳥の拠点施設整備に係る考え方（案）

■放鳥対象

- 『コウノトリ』を当面の対象に、事業実施が可能な自治体（市町・県）から、それぞれ１ペア以上の飼育・放鳥施設の整備に着手する。

■放鳥方法（※イメージ案：実際には専門家を交え詳細を検討する必要あり）

- 風切り羽根を切った♂♀成鳥を、約 40m×30m 等のオープンケージ内で飼育・増殖する。
- ケージ内で繁殖し巣立った幼鳥は自然放鳥となり、野生復帰個体群のソース（供給源）とする。

■拠点施設

- 基本となる施設整備の内容は、豊岡市のコウノトリ放鳥拠点手法を参考。オープンケージ・ソフトリリース方式を採用。土地利用制限等に応じて、「フェンス型常設ケージ」と「ネット型簡易ケージ」を選択する。
- オープンケージ内には、湿地ビオトープ（餌場）・繁殖用巣台・収容ケージ・管理小屋等を整備する。
- 設置主体は市町・県を基本とし、飼育・増殖の運営・支援は国や動物園等との連携を想定する。
- 飼育放鳥拠点は野外成鳥が飛来する誘引要因になりうるため、周辺適地に人工巣塔を設置し、自然繁殖を促す。

■飼育・放鳥拠点候補地の抽出

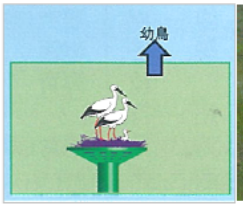
- 設置場所は、周辺生息環境整備や集客アクセスとの関連性、交通事故や開発抑制懸念等を考慮した選定条件の総合的な検討に基づき決定する。（参考資料候補例）

■広域連携

- ネットワーク形成および野生個体群の早期確立等の観点から、複数自治体が同時並行して飼育放鳥拠点の整備に取り組むことが望ましい。

◆放鳥方法（仮案）

飛べない状態にしたペアを放鳥拠点で飼育・繁殖させ、巣立ち幼鳥を自由にさせる方法（段階的放鳥：ソフトリリース）



風切り羽根を切った成鳥ペアの場合、地上近くの巣台（~0.8m）で子育てを行う
（出典）兵庫県コウノトリの郷公園資料、但馬ふるさとづくり協会・但馬広域行政事務組合ＨＰ「但馬情報特急」内「たじまのしぜんブログ」

◆拠点施設（イメージ）

飼育・放鳥拠点のイメージ

↑一豊岡市祥雲寺地区の放鳥拠点

飼育・放鳥に係る拠点施設整備と多様な主体の協働にむけた課題

- 長期的な計画に基づく飼育・放鳥の推進
- 飼育・放鳥の拠点となる施設の整備
- 飼育・放鳥拠点を核とした地元の受け入れ体制づくり
- 多様な主体の連携・協働・支援の体制づくり
- 広域的な参加のしくみづくり

←人工巣塔
↓ケージ内の餌場用池

ケージ内の巣台→

■飼育・放鳥に係る多様な主体の協働（施策案）

■長期的な計画に基づく飼育・放鳥の推進

- 関東地域の飼育・増殖・放鳥関係者、先進地（豊岡）の飼育・増殖・放鳥の専門家による会議の設置・運営
- コウノトリの放鳥計画（生態・遺伝等の面にも留意した関東地域全体における長期計画）の検討・作成
- 計画に基づく長期的、計画的かつ順応的な飼育・放鳥の推進

■飼育・放鳥の拠点となる施設の整備

- 飼育・放鳥拠点の重点整備地区の検討・抽出及び整備の推進（市町村）
- 施設整備用地の提供（国・県）
- 国・県の既存・新設の事業、制度等による支援（※１）
- 拠点における飼育体制の検討
- モデル自治体以外への声かけによる、新たな飼育・放鳥拠点候補の抽出・検討・整備

※１：千葉県における補助制度の例
「ちば環境再生基金」（財）千葉県環境財団
市町村が行う戦略的自然再生事業への支援（ハード・ソフトとも）。1/2 助成、助成上限額 1,000 万円。複数年申請可。

■地元の受け入れ体制づくり

飼育・放鳥は、地元の受け入れ体制づくりが非常に重要であり、放鳥時期に向けた受け入れ体制づくりを行っていく必要がある。

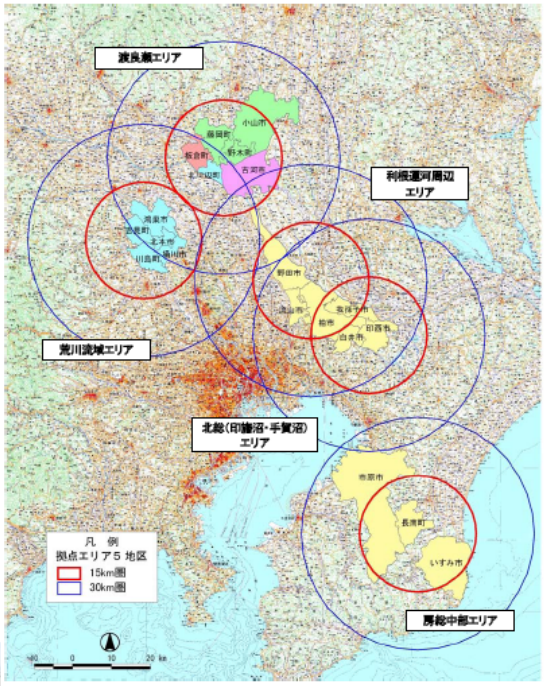
- 拠点施設整備候補地の地元住民、農家、内水面漁業関係者等、コウノトリが放鳥された場合に何らかの関わり、影響を受ける人々への、コウノトリに関する普及・啓発、調整等。
- ヨシ焼きや農薬の空中散布等、コウノトリの飼育・放鳥・営巣等に影響があると考えられる事項についての、調整等。
- 拠点施設整備候補地周辺の小中学校等における、コウノトリをテーマとした環境学習や自然体験による、次世代の人づくり。

■多様な主体の連携・協働・支援の体制づくり①：民間の協力体制づくり

- 自然環境や野鳥に係る市民団体等による、放鳥後のモニタリング、監視体制づくりに向けた連携・協力体制づくり
- 自然に係る博物館・動物園・学習センター等の相互連携による方法発信、地域住民への教育・普及の推進。

関東地域の広域間の連携・協力による コウノトリ・トキの定着をめざした取り組みの推進

放鳥方法、拠点施設の配置、血統に配慮した個体の選別など、拠点間やエリア間における個体の交流なども視野に入れた、放鳥個体・放鳥時期など、広域的・長期的視野に基づく放鳥計画を検討・作成するとともに、地元の受け入れ体制づくりや、放鳥後の個体を見守るためのネットワークづくり、協力体制づくりが必要。



■多様な主体の連携・協働・支援の体制づくり②：連携・協力・調整・情報交換の場づくり

- 「５エリア連絡協議会」の開催
- 「コウノトリ・トキ野生復帰専門家会議（仮）」の開催

■多様な主体の連携・協働・支援の体制づくり③：企業との連携

- 施設整備面における技術的、資金的支援
- 飼育・放鳥や環境保全・整備に係る資金への支援（基金、寄付、後援等）
- 電力会社との事前調整（電柱におけるコウノトリ対応等）
- 飼育・放鳥・監視における、企業の持つ技術やノウハウを生かした支援

■多様な主体の連携・協働・支援の体制づくり④：飼育・増殖（動物園の参加・協力）

- コウノトリの飼育・繁殖の推進
- 各エリアにおける飼育・放鳥の支援体制、方法等の検討

■広域的な参加のしくみづくり

- 多様な参画・連携・協力のあり方の提示と、モデル自治体以外の自治体への連携・協力の呼びかけ
- 「コウノトリ・トキと共生する地域づくりシンポジウム（例）」の開催などによる、取り組み地域および広く一般への取り組みの普及・浸透

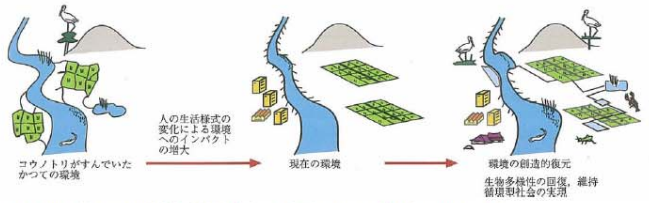
Stage B. 採餌および営巣・塒の生息環境整備の推進　【定着地づくり】－ つなぎとめる

◆定着地づくりに向けた生息環境整備の基本的な考え方

—昔の環境に戻すのではなく、生息が可能となる機能を再構築することを意図する—

—現在の社会経済基盤やシステムを改良しながら、

生息環境の改善を積み上げていくことを方針とする—

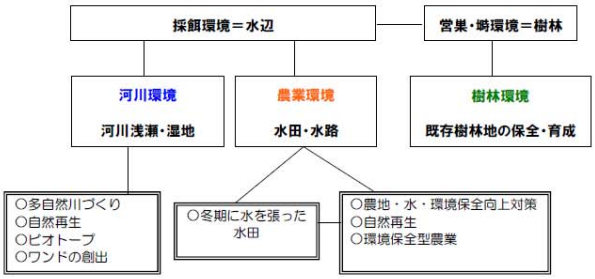


コウノトリの野生復帰のための環境整備の基本的な考え方．出典:内藤・池田 2005. 自然再生:ソフトサイエンス社

◆定着地づくりのための生息環境整備の内容

コウノトリ・トキの生息環境整備の内容は、主に「採餌環境（水辺）整備」と「営巣・塒環境（樹林）の整備」により構成される。

当面の野生復帰対象であるコウノトリは、人工巣塔を繁殖や塒として利用することもあり、定着地づくりに向けた生息環境整備では、“採餌環境の保全・再生”が優先的な取組み課題といえる。



■　水田環境対策の３本柱

※農地・水・環境保全向上対策の積極的な活用

対策１　農薬･化学肥料への対応

営農活動（共同活動の実施地区内）

水田交付金額：6,000 円/10a＋1 地区 20 万円

● 交付要件

①『化学肥料と化学合成農薬の使用の５割低減』等に取り組むこと。

②エコファーマーの認定を受けること。

③ 地域で一定のまとまりをもって取り組むこと。

対策２　水管理の多様化

営農活動の内、環境負荷低減の方法のひとつとして、『不耕起（浅水代かき可）かつ冬期湛水』の対策メニューの実施が可能

対策３　水系のつながりと餌動物の生息場づくり

共同活動　水田交付額：4,400 円/10a

● 交付要件

① 基礎部分：施設の維持保全のための活動

② 誘導部分

②-1.農地・水向上対策：施設の長寿命化につながる活動

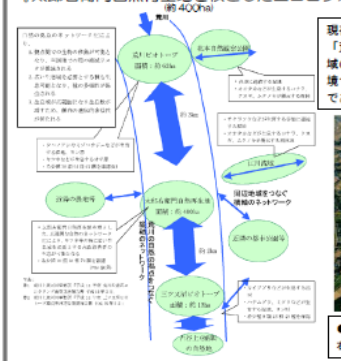
②-2.農村環境向上対策：生態系・景観保全に資する活動

→農村環境向上対策で『水田魚道』の設置が可能

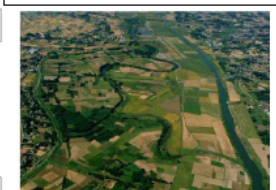
◆『コウノトリ・トキの採餌環境』の再生・創出が期待される各エリアにおける既存の計画・構想との連携

●荒川流域エリア：　【荒川上流河川事務所】

『太郎右衛門自然再生地を核としたエコロジカル・ネットワーク構想』



現在、荒川上流河川事務所により実施されている「荒川太郎右衛門地区自然再生事業」を核とした流域づくりの観点からも、十分整合が図れる取り組みであり、今後、一体的な検討・推進が望まれる。



●広大な河川区域内に旧流路・水田等が広がる「太郎右衛門自然再生事業地」（川島町・桶川市域）

出典：荒川太郎右衛門地区自然再生事業_自然再生全体構想　http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/torikumi/renkei/taro_meeting/05-1.html

●利根運河周辺エリア：　【江戸川河川事務所】

『利根運河エコパーク構想』

利根運河（陸域・水域）、良好な湿性林・樹林地、および連続性のある河川・水路、湿地等の環境特性を活かした、地域の生物多様性を保全・再生するエコロジカル・ネットワークの形成が目標

出典：利根運河エコパーク実施計画

● 渡良瀬遊水地エリア：　【利根川上流河川事務所】

『第２調節池・湿地保全再生計画』

約 500ha の第２調節池全体を対象に、湿地再生する目標像として、次のように設定

○湿性の昆虫類や湿性植物・・・湿地

○シギ・チドリ類や

その餌となる水生昆虫、貝類

・・・浅い沼地（5～30cm 程度のなだらかな起伏をつけた底面掘削）

○大型水鳥類、魚類

・・・深い沼地（水深 1m 程度）

○チュウヒ・・・餌場になる多様なヨシ原

出典：第８回渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会
http://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/news/news090820/shiryou-4.pdf

●北総（印旛沼・手賀沼エリア）：　【千葉県】

『印旛沼流域水循環健全化計画』の推進

●印旛沼流域再生の５つの目標のひとつとして「ふるさとの生き物をはぐくむ印旛沼・流域」が挙げられている。

出典：印旛沼流域再生－恵みの沼をふたたび－　第７回印旛沼再生行動大会資料

●房総中部エリア：　【千葉県】

『千葉の里山・森づくりプロジェクト』

リーディング事業・活動候補地

●房総中部エリアとその周辺には様々なタイプの里山再生のプロジェクトが構想されており、水田と樹林帯を一体的に維持、保全することを通じて、これらの有機的な連携・広がりからコウノトリ・トキの生息環境の創出・充実化が期待。

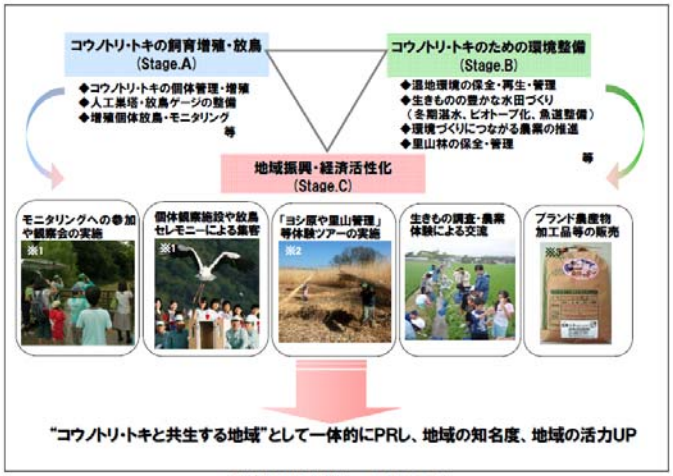
出典：千葉の里山・森づくりプロジェクト
http://www.prof.chiba.lg.jp/syozoku/b_seisui/chiikisenryaku/satopro/top.html

Stage.C 継続的取り組みと地域振興・経済活性化への展開　【人づくり・地域づくり】―――果実を得る

■地域振興・経済活性化へ向けた展開

コウノトリ・トキの野生復帰を通じた地域の経済活性化や地域振興は、飼育増殖・放鳥のための「Stage.A」、生息環境づくりのための「Stage.B」における施策の推進の中で、地域内外の多くの人々にアピールし注目を集め、興味・関心を引きつけ関連するプロジェクト・イベントへの参加や、来訪、支援を促すことで生まれてくる。

このため、「Stage.A、B」の取組を効果的に実施していく社会基盤づくりと、各エリアの地域ごとの個性を反映した、インパクトのある魅力的な地域づくりコンセプトに基づく、イメージの確立とＰＲが重要となる。



地域振興・経済活性化への展開イメージ

■地域振興・経済活性化に向けて求められる取組メニュー（例）

コウノトリ・トキと共生する地域社会づくり

○ **住民が参加するしくみをつくる**
- コウノトリやトキを受け入れるための環境教育
- 参加や支援が可能な取組（モニタリング、監視員など）の情報発信
- 参加できる活動拠点・団体などの発信・しくみづくり

※4

○ **地域全体での盛り上がりを演出**
- コウノトリやトキをシンボルとした看板や施設整備
- ローカルテレビ・新聞などでの継続的な情報発信

※5

コウノトリ・トキとの共生を活かす

○ **コウノトリやトキを目玉とした集客**
- 体験拠点の整備や地域資源・歴史文化との関連性を活かしたメニューの検討
- ツアーガイドやコーディネーターの育成
- 旅行業者や交通機関との連携

○ **ブランド商品（農産物・加工品など）の販売**
- 農産物、加工品などの開発
- 道の駅、アンテナショップなどを活用した販売促進

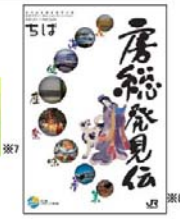
※6

取組の普及啓発・継続に向けて

○ **地域外の支援者や来訪者による支援体制づくり**

○ **南関東エリア一体となった取組PR、プロモーションの実施**

※7



※8

■地域振興・経済活性化に向けての課題

○各エリアの差別化を図るための、エリアごとの自然環境、歴史・文化資源、コウノトリ・トキに関する史実などの地域の個性・特色の情報活用

○エリア内での統一コンセプトに基づくブランドイメージ確立のための場づくり　○南関東エリア全体のプロジェクトとして、一体的なプロモーションの実施や取組支援のための体制づくり

○環境と経済の共鳴に賛同する企業・事業体など、多様なセクターの参加の促進　○プロジェクト推進による社会経済効果のモニタリングと情報発信

＜資料内写真出典＞
※1:豊岡市 HP　※2:渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会HP　※3:JAおやぶHP　※4:我孫子市HP　※5:福井新聞
※6:グリーフHP　※7:コウノトリファンクラブHP　※8:JRグループHP　その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影

南関東各エリアが目指す、"コウノトリ・トキをシンボルとした地域づくり"のコンセプト

各エリアは、地域の持つ自然環境や社会条件、歴史文化等の特性を活かして、コウノトリ・トキと共生する地域づくりのコンセプトに基づいた地域将来ビジョンを明確にし、エコロジカル・ネットワークの形成と地域振興・経済活性化に向けた、地域のプロモーションやブランドづくりに取り組むことが求められる。各エリアの個性に応じた地域づくりのコンセプトは以下の通りである。

◆本州最大規模の一大湿地にコウノトリ・トキが暮らす豊かな自然と人の営み、歴史が育む『渡良瀬遊水地エリア』

○本州以南最大の広大な湿地で展開される、湿地の保全・再生や、周辺水田で生きものに配慮した農業が進められ、多くの命を育む首都近郊の一大水辺環境拠点
○地域のシンボルとして広く地域住民にも認識される渡良瀬遊水地の国際的評価に伴い、首都圏はもとより世界に向けた魅力の発信が可能
○足尾銅山の公害、ヨシズ産業など人の暮らしや営みと自然との係わりを学ぶ地域固有の環境資源が豊富

※1

◆運河が刻む歴史と谷津にコウノトリ・トキが翔ぶ環境共生先進地『利根運河周辺エリア』

○ 利根運河を軸とするエコロジカルネットワークやフットパスを活かし、都市住民をターゲットとするエコツーリズムの展開
○ 江川地区、新川耕地、田中調節池などのコウノトリ・トキが生息可能な大規模緑地空間を安らぎの場、農業体験、歴史体験の場としても一体的に提供
○ エリア内に多い大学等との連携により、コウノトリ・トキや環境に係わる先端情報の発信・活用による地域づくり

首都圏 4,200 万人の人口と、成田・羽田空港からの訪日外国人 480 万人／年をターゲットに南関東各エリアの生態系サービス向上の取組をPR・情報発信!!

◆日本を象徴する里地里山にコウノトリ・トキが棲む世界に開かれた玄関口『北総（印旛沼・手賀沼）エリア』

※2

○ 日本の里を印象づける、「手賀沼」「印旛沼」「利根川」の水辺と周辺に広がる里山環境
○ 地域に残るコウノトリ・トキとの歴史のＰＲ
○ 成田高速鉄道、北千葉道路の整備に伴う、成田・羽田空港との直結による海外・全国からの玄関口としての役割
○ 外国人観光客にアピールする里山の「伝統」と「近代」の都市が共存する地域

◆房総の森や田でコウノトリ・トキと共に生きる里山スローライフを提供する『房総中部エリア』

※4

○ 里山での環境に優しい農業、ローカル鉄道によるのんびりした旅など、近年の LOHAS、スローライフなどの新しい時代や世代の暮らし・旅のスタイルを提供
○ アクアラインや圏央道の整備による都心からのアクセス向上を活かした房総周遊の観光客・移住者の獲得
○ 地域に残るコウノトリ・トキとの歴史や物語をＰＲ

※3

○日本一の川幅、県土面積に占める河川割合全国一の広大な河川敷に残る河畔林、水田、湿地や旧流路からなる心安らぐ自然環境
○荒川太郎右衛門自然再生事業等の全国最先端の「荒川流域エコロジカル・ネットワーク計画」が進行中
○圏央道・上尾道路の整備に伴う東京からのアクセス改善を活かした集客や地域づくり

◆首都圏にあってコウノトリ・トキが広大な河川敷や水田を舞う安らぎのアーバンネイチャー『荒川流域エリア』

＜資料内写真出典＞
※1:古河市 HP　※2:印西市HP　※3:房総LIFEホームページ　※4:(社)千葉県農業協会　その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影